

西南学院大学 図書館報

No. 3 9

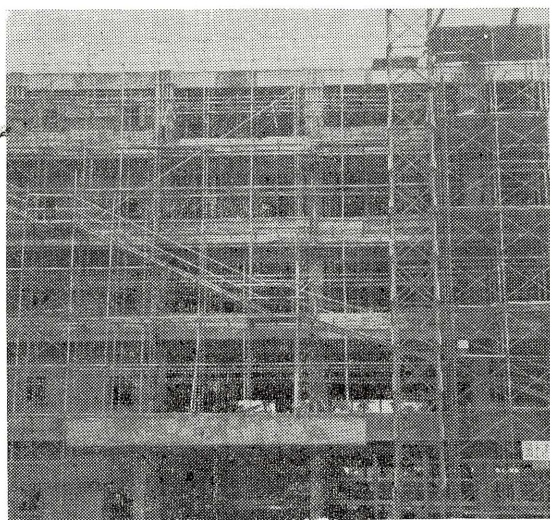
1968年7月1日発行

 福岡市西新町
 西南学院大学図書館
 編集人 山下和夫

完成近い新図書館

— その内容と機能の概観 —

新図書館がよいよその外郭を現わした。5階建てで、見上げるほどの大きさである。おそらく大学の中では一番高いものになったのではないかなと思われる。総面積が4437.5㎡(1342.3坪)であるから、現在の図書館の約三倍半はあろうか。しかし、5館は、中途から増設されることになったもので、当初は4階までの計画であった。従って、外郭だけは5階まで作られるが、内部工事は4階までで、当分の間5階は使用できない。4階まで図書が一杯になったときに、内部工事をして使用できるようになる予定である。ところで、このように大きく膨れ上った図書館の中に盛られる内容と機能は一体どのようなものとなるのか、これが最も問題である。大学図書館の機能は学習・研究・総合・保存の四つであると言われているので、そのそれぞれについて新図書館のもつ特色を概観してみることにしたい。まず学習面の機能については、前号で坂本館長から詳しい説明がなされたので、そこを読んでいただくことにし、ここには簡単に触れるだけにする。1階におかれる学習室と2階の指定図書室とは専ら学生の学習のためのもので、そこに備えられる指定図書も、既に先生方の指定申込みを得て現在購入準備が進められている。これらの部屋は学生の学習の需要に応じようよう十分なスペースと設備とそれに必要な図書が与えられることになるはずである。図書館に来る学生の中には、図書館の本を利用せず、自分の本で自学自習している人がかなり多いのだが、このような人のためには、携帯品を所持したまま自由に入出入りできる1階の学習室は、この上



ない便宜な場所といえるだろう。次に、研究面の機能としては、新館の4階が主としてその用途にあてられることになっており、研究用図書を収めた閉架図書室、商経関係の統計資料を中心とした資料室、それに教授閲覧室が設置される。最近、世界における文献の量は莫大なものになってきており、ここ数年で十倍近い増加を見せているというから今後その量は驚異的なものとなろう。従って図書館としてもそれに応じうる態勢が必要なので、まず文献情報活動を拡充するための書誌、抄録、索引その他の参考図書の充分な整備が図られねばならない。それとともに、必要な文献をコピーして提供できる複写設備が完備されることである。そうすることによって、自分の図書館にない文献でも直ちに他の図書館からコピーをわけてもらい、お互いに融通しあうことが〔次頁へ〕

〔前頁より〕可能となるので、その研究上の利便は著しく昂まるのである。新館ではこのような書誌、抄録、索引類を充実させ、かつなるべく一箇所に集中させて参照に便利のようにしたい。また複写室・暗室もできるので、文献複写のサービスも拡充されよう。ところで文部省から出た「大学図書館施設計画要項」によると、研究図書館が余り分化すると適正な奉仕活動や管理運営が困難になるから、できる限りこれを統合することが望ましいとされているが、その点本学では学内の資料一元化の方針が確認され、研究用の文献資料も全て図書館で集中的に収集・整理・保管・運用がなされることになっており、極めて機能的である。ただ、資料室は今後開拓してゆかねばならない新しい試みであるので、この方面に力を注いで、先生方の需要に応じてゆきたいと思っている。

第三に総合的機能であるが、これは学内の図書館活動は常に総合、連絡、調整を必要とするという意味での活動である。幸い本学には神学部分館と短大分館の二つしか分館はなく、しかもそれぞれ目録カードが本館に送られて総合目録が整備される手筈になっており、一応は総合的な情報管理の態勢ができているといえよう。他の大学図書館との相互協力体制もこの機能の中に含めて考えると、図書館協議会での申し合わせもあって最近はお互いに研究文献のコピーを提供するようになってきた。

最後に保存的機能であるが、ここでいう保存というのは、文献資料の増加にともなって、使用頻度の相対的に低下した資料を集約的に収納することを意味する。余りいらなくなった本はできるだけ通常の書架から外し、一定の倉庫に集めるのが管理上からも利用上からも望ましいことはいうまでもない。新図書館にはこういった保存書庫は今のところない。第二期工事として新館の東側に積層書庫が増築されることになっているので、おそらくその積層書庫の一部がこのような保存書庫にあてられることになると思像される。現在の図書館が開架制度を採用してもはや14年になり、学生用図書はかなりいたんできているので、このような保存書庫ゆきのものもかなり多いのではなからうか。

以上、新図書館のもつ学習・研究・総合・保存の各機能を概観して見たのであるが、もう一つ落してならないのは、ここに列挙された各機能を果す職員の存在であって、職員の充実がなされなければ上述しことも画にかいた餅となってしまう。人員の充実はもちろんであるが、その資質の向上も図られねばならない。最近、近代的図書館の機能ということが強く要請されているが、それは施設面だけの意味ではなく、それを果しうる有能な職員の養成をも含んでいるのである。職員の充実が望まれてならならゆえんである。

告 知 板

○ 夏休長期貸出 7月1日(月)から夏休長期貸出を始めます。冊数は2冊以内、期限は9月11日(水)までです。

○ 夏休中の開館 休館予定 休暇中は原則として次のとおり開館します。

月曜 — 土曜 8.30 ~ 17.00

(第一水曜日は午後1時まで)

なお、職員研修会のため、

8月10日(土) 閉 館

8月12日(月) 休 館 の予定です。

○ 新図書館への移転 新図書館の竣工は8月末の予定ですが、9月は前期試験があるため、移転は前期試験終了後となる予定です。図書館の移転は大作業であり、相当の所要日数がかかると思われます。約20日間休館する予定ですので、ご承知ください。なお、その間、図書の特別長期貸出を行うつもりです。

○ 卒業論文の閲覧手続について

図書館に保管されている卒業論文を閲覧する場合は、ゼミ担当教授の承認が必要となりました。希望者は予め係員から用紙をもらってください。なお、館外貸出はできません。

お知らせ INFORMATION

■ 雑誌購入希望の調査結果について

図書館では新館の完成を目前にひかえて雑誌の充実をはかりたいという趣旨から、さる6月1日(土)から6月7日(金)までの1週間、雑誌購入希望のアンケートを実施した。調査した対象はその期間に入館した全学生であるが、予期に反して意外に反応が少く、回答は100名に満たなかった。これは、図書館の雑誌が既に相当の整備がはかられているため、新規備付の希望者が少なかったせいだと考えられる。集計結果は次のとおりである。

配布枚数	450枚	回収枚数	98枚
うち有効なもの	73枚		
(雑誌名)	(希望数)	(雑誌名)	(希望数)
時	9	サンデー毎日	4
エコノミスト	7	スイングジャーナル	3
朝日ジャーナル	7	暮らしの手帳	3
世界	5	中央公論	3
モーターサイクリスト	4	時事英語研究	3
東洋経済	4	(以下2票と1票は省略)	

以上の雑誌の中には現にあるものがかなりあるので、正味の新規希望は少ない。しかし、これらの回答に感謝し、できるだけ希望を参考にして新しい雑誌を選定することにした。

■ 私立大学理科等教育設備の実地調査

昭和42年度から文部省の補助が受けられるようになった私立大学理科等教育設備整備費補助金(学生用図書)の整備状況について、さる6月13日(木)文部省の実地

調査が行われた。当日は午後2時過ぎから、院長室で係官を囲んで説明があり、その後図書館の備付現場の実地調査がなされた。

■ 指定図書制度の実施

指定図書制度というのは、学期のはじめに、講義担当の教授が、その講義を聞くものがかならず参考にしなければならない図書を何冊か指定し、これを相当数の複本とともに指定図書室に備えて特別の利用方法を講じ、学生の利用の円滑化を図ろうとする趣旨のものである。本年度からこの制度が採用され、既に大部分の先生から沢山の指定図書の申込みがなされた。この指定図書は新図書館では指定図書室におかれるが、それまではリザーブ方式で貸出がなされる。若干不便であるが、しばらくご辛抱下さい。

■ 研修・出張

- 私大図書館協会西地区部会 43.5.15 (於名城大学) 山下出席。
- 九州地区大学図書館協議会 43.5.16~17 (於九州大学) 伊藤・藤田出席。
- 福岡県大学図書館協議会総会 43.6.21 (於九州大学) 坂口出席。

■ 寄贈図書

- 大崎正治助教授より 計量経済学入門 他36冊
- 川上太郎教授より 改正民法解説 他63冊
- 平岡規正教授より 現代経済学原論
- 井上忠教授より 従二位黒田長濤公伝 1~10編
- 船越栄一教授より 新版商法

図書館で使われる用語にバックナンバー (Back number) という言葉がある。交通事故頻発の最近のラッシュの折、バックナンバーという言葉からは、車の番号を連想される人もありそうであるが、バックナンバーとは雑誌の旧号、いわば月遅れの雑誌のことで、定期刊行物、または逐次刊行物などの旧号で、すでに発行された1冊、またはその一揃いをそのように呼ぶのである。

このバックナンバーは、長い年月にわたって発行され堆積されていくものである。で、旧号が完全な形で揃っているのは、それだけで相当の値打がある。ことに学術雑誌のバックナンバーは極めて重要な資料であるので、もし一揃いの中の1冊が紛失すればその全体の価値は著しくさがるし、又補充することも困難な場合が多い。

古本屋さんの話によると、欠号の多いバックナンバ

ーの一山は、ボロ屑相当の値段でしか取り引きがされないが、いくつかのボロ屑の山から完全な揃いの一セットができあがると、たちまちにしてかなりの高値を呼ぶとのことである。それまでには大量のボロ屑同様の重複雑誌も抱えこんでねかしておかなければならず、その努力は大変なものだそうである。

図書館での用語

その4

最近では学術雑誌の原版 (Original edition) で入手しにくく、利用度が多いものは、その複製版 (Reprint edition) がかなり出版されている。複製版とは原本の全部または一部分を転写し、または写真等の手段によって複製刊行されたものであり、最近、雑誌や図書にしばしば見うけることができる。

〃紳士録「酔へば踊る」と書いてなし〃

さかえ
(伊藤)

昭和42年度 図書館統計

● どんな内容の本がどれだけ増加したか

(昭和42年度増加冊数)

区分	内容	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	計
和		482	1,171	666	3,899	622	270	747	439	569	1,338	10,203
洋		129	284	90	1,245	152	55	153	31	604	1,287	4,030
計		611	1,455	756	5,144	774	325	900	470	1,173	2,625	14,233
前年度		336	853	567	3,770	477	232	825	227	552	1,852	9,691

● 雑誌や新聞、視聴覚資料はどのくらいふえたか

区分	定期受入雑誌		定期受入新聞		計
	購入	寄贈	購入	寄贈	
和	183	222	12	24	441
洋	94	80	6	0	180
計	277	302	18	24	621

視聴覚資料			
レコード	スライド	テープ	計
10	1	1	12

● それでは、この一年間、図書館はどれだけ利用されたか

<昭和42年度入館者数(学生)>

<昭和42年度貸出人員(学生)>

<昭和42年度館外貸出図書冊数(学生)>

学部別	昭和42年度	前年度
神学部	8	6
文学部	28,016	29,247
商学部	32,617	29,122
経済学部	30,333	31,983
法学部	8,180	—
短期大学部	285	541
その他	56	81
計	99,495	90,980

学部別	昭和42年度	前年度
神学部	7	6
文学部	6,795	6,574
商学部	6,617	5,667
経済学部	6,580	6,237
法学部	1,242	—
短期大学部	88	172
その他	28	28
計	21,357	18,684

分類別	昭和42年度	前年度
0 総記	529	432
1 哲学	2,644	2,611
2 歴史	1,081	986
3 社会科学	11,099	8,780
4 自然科学	498	670
5 工学	167	258
6 産業	3,071	2,253
7 芸術	1,060	824
8 語学	989	811
9 文学	8,191	7,241
雑誌	675	603
計	30,004	25,469

奉仕係より

- 昭和42年度の図書館統計では、図書の増加冊数が約14,000冊と前年度に較べて飛躍的に増加しているとともに、利用面においても、入館者、貸出人員、貸出冊数とも大巾な伸びを示しています。法学部が新しくふえたことが第一の原因と見られます。既存の学部では商学部の利用増加が目立っています。
- 本年3月中旬に一週間図書館を閉館して図書の在庫調査を実施しました。その結果、約500冊の図書が行方不明になっていることが分かりました。この冊数はここ数年間に比べて約二倍近い数で、開架図書冊数が約6万冊ですから0.8%に当る事故件数となります。開架制度という自

由な制度を悪用する不心得な人があつたとを絶たないことは大変残念でなりません。新図書館でもこの開架制度は維持されますが、どうかこのような恥ずべき事故を絶滅できるよう、皆様のご協力をお願いします。